

県内の児童などを励まそうと、福島の子どもたちがつづった
寄せ書き 芦北町

生協くまもとのみなさん
がんばってください

コヨット!

犠牲になられた方とご遺族にお悔やみ申し上げます
とともに、被災に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

2016春コヨット! inくまもと参加者一同

福島と県内 児童がエール交換

「心つながってる」

芦北町で自然体験会を3月に楽しんだ福島県の児童11人から、熊本地震で被災した県内の子どもたちを励ます寄せ書きが届いた。受け取った児童たちも感謝の手紙を返し、絆を深めている。

励ましの言葉をもらった県内の児童たちは「みんなと過ごした時間を思い出して笑顔になりました」「また会いたいです。遠くても空はつながっているから」などと返信した。

体験会は、東日本大震災に遭った子どもに伸び伸び遊んでもらおうと、水俣市の生活協同組合くまもとが3月28〜30日に開催。同町や熊本市、八代市などの児童14人が加わり、甘夏の収穫やナイトハイクなどで交流した。

寄せ書きはまず4月末に益城町の同生協熊本事務所に届き、職員を勇気づけたという。同生協東日本復興担当理事の中野祐子さん(59)は「次代を担う子どもたちの絆に大人が励まされている」と喜んでいる。

体験会の2週間後に熊本が被災すると、福島県の児童は「私たちも5年前に同じようなことがあったので心

(福山聡一郎)